

平成14年度事務事業評価表

課長	担当

担当	教育委員会 部	博物館 課	内線等	8013
----	---------	-------	-----	------

事業コード		事務事業名	貸しギャラリー運営事業		
根拠法令等	蒲郡市博物館の設置及び管理に関する条例 蒲郡市博物館管理規則	A法令	Ⓑ条例	Ⓒ規則	Dその他 Eなし

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

豊かな心と創造性を育むまちづくり	文化
------------------	----

事務事業の内容

対象	蒲郡市民に
手段	絵画・写真・工芸品など、自分たちの作品発表の場を確保することによって
想定する成果	生涯学習の推進と、「文化・感性・活力」にあふれたまちづくりの原動力とする。

事業の概要

項目	平成13年度実績	平成14年度実績	平成15年度計画
年間使用件数、日数	31件 183日(準備日含む)	31件 167日(準備日含む)	30件 160日(準備日含む)
年間使用料収入	14件 228,200円	15件 281,700円	15件 270,000円
年間ギャラリー入場者数	26,189人	22,514人	23,000人

成果指標

成果指標名	ギャラリー稼働率(準備日含む)	ギャラリー週末(土・日曜)利用率
成果指標の説明	年間ギャラリー使用日数 / 年間開館日数 × 100	週末利用件数 / 年間週末回数 × 100

事業の進捗状況

(一般会計)

(千円)

		平成13年度決算	平成14年度決算	平成15年度予算
成果指標	計画	-	-	60.0%
	実績	60.8%	55.3%	-
成果指標	計画	-	-	83.0%
	実績	83.7%	82.0%	-
事業費	事業費	458	423	683
	人件費	5,014	4,957	4,211
	(人数)	0.6	0.6	0.5
	合計	5,472	5,380	4,894
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	使用料	228	282	270
	一般財源	5,244	5,098	4,624

事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	常連の団体ばかりではなく、サークルや個展にも随時利用されている。
経済効率性	2	2	昭和63年以降据え置いてきた使用料を、平成15年度から維持管理料の増高分を反映させたものに改正。
事務効率性	2	2	会議室などの貸館業務とは異なり、展示に際して学芸員の豊富な経験と知識を生かした指導・助言を行っている。
必要性	3	3	市民へ質の高い発表の場を提供することにより、お互いの研鑽が深まり、生涯学習の推進と向上に役立っている。
小計	9 / 12 満点中	9 / 12 満点中	
市民参加度	2	2	発表する側の市民からは、より広い展示スペースを求められているが、見る側の市民ニーズも情報収集したい。
合計	11 / 15 満点中	11 / 15 満点中	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	市民文化祭や博物館企画展など公的催事の比率が高いのは文化的施策上やむを得ないが、一般利用促進にもう少し努める必要がある。理想としては、週末利用率を9割近くに上げたい。使用料収入の増加にもつながる。
------	---	---	--

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

- ・増築してオープンした昭和63年4月以降、使用料を据え置いてきたが、平成15年4月1日利用分から維持管理費の高騰分に見合ったものへ料金改正した。
- ・オープン当時から、利用者へのサービスとして展示準備を手伝っている。これは、施設の損傷や汚れを防ぐ効果もあり、今でも経年劣化以外での傷みは少ない。

今後改善すべき点

- ・ギャラリー催事を、ホームページだけではなく広報紙なども使ってPRに努めたい。また、博物館周辺に催事内容を知らせた案内板を設置したい。
- ・市民ニーズを反映した究極の目標は、博物館の増改築であるが、現在は市の財政事情により計画そのものが凍結されている。

平成16年度予算に反映する項目

- ・ギャラリー催事案内板1基（博物館駐車場入り口付近の道路から見える場所）を予算要望する予定。

組織、人員に関する提言

各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

平成14年度事務事業評価表

課長	担当

担当	教育委員会 部	博物館 課	内線等	8013
----	---------	-------	-----	------

事業コード		事務事業名	市史編さん事業		
根拠法令等	なし		A 法令	B 条例	C 規則
			D その他	⑤ なし	

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

豊かな心と創造性を育むまちづくり	文化
------------------	----

事務事業の内容

対象	一般市民に対して
手段	市制施行50周年の平成16年度に市史を刊行し、一般頒布することによって
想定する成果	蒲郡の原始・古代から現代に至るまでの正しい歴史理解を市民に供し、且つ利用に役立ててもらふ。

事業の概要

項目	平成13年度実績	平成14年度実績	平成15年度計画
嘱託職員報酬	3名 3,750,000円	3名 4,500,000円	3名 4,500,000円
監修者報酬	5名 1,320,000円	5名 1,320,000円	5名 2,820,000円
執筆委員報償費	21名 820,000円	21名 2,196,300円 (原稿料の一部を含む)	(校閲料含む) 25名 5,710,000円 (原稿料の一部を含む)

成果指標

成果指標名	原稿進捗率(本文編)	刊行率
成果指標の説明	(脱稿原稿ページ数 / 予定総ページ数) × 100	(既発刊巻数 / 予定発刊巻数【本文編4巻, 別編4巻】) × 100

事業の進捗状況 (一般会計)

(千円)

		平成13年度決算	平成14年度決算	平成15年度予算
成果指標	計画	-	-	100.0%
	実績	10.0%	65.0%	-
成果指標	計画	-	-	0.0%
	実績	0.0%	0.0%	-
事業費	事業費	7,177	9,103	15,616
	人件費	5,014	6,197	9,264
	(人数)	0.6	0.75	1.1
	合計	12,191	15,300	24,880
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	12,191	15,300	24,880

事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	1	1	執筆者の多くが小中学校教師であり、多忙な学校現場との両立に苦慮している。
経済効率性	2	2	1巻ごとのシリーズ発刊を避けて、本文編4巻を同時発刊することにより、経費と期間の短縮を図っている。
事務効率性	2	2	印刷業者への原稿渡しをフロッピーとすることで、印刷期間と印刷費用の圧縮を図る。
必要性	3	3	本市の歴史を正しく記録保存し市民に提供することは、今後の市勢や文化の発展の基礎をなすものである。
小計	8 / 12 満点中	8 / 12 満点中	
市民参加度	2	2	資料提供などで多くの市民の協力を得ている。
合計	10 / 15 満点中	10 / 15 満点中	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	原稿執筆の足並みが揃わず、目標であった平成14年度中の脱稿が出来なかったため、提出期限を平成15年8月に延ばした。予定している市制50周年の平成16年度の発刊には万全を期す。
------	---	---	---

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

- ・市町村史の執筆は、大学教授等へ依頼することが一般的であるが、本市は小中学校教師や市職員を充て、経費の節減を図った。
- ・執筆しやすい環境づくりとして、教師執筆委員の服務取り扱いを「職務専念義務免除」とした。
- ・週1回を、博物館における集中活動日として設定。実際の作業は、学校現場の終了する夕刻となるため、博物館関係職員を時差出勤制とし、これに対応している。

今後改善すべき点

- ・原稿遅れの執筆者には、編さん室職員などがサポートに回り、協力体制の徹底を図る。

平成16年度予算に反映する項目

- ・印刷製本費の支払いは平成16年度とする。（平成15年度予算で債務負担行為の議決を得ている）
- ・平成15年度には本文編の編集作業が終了するので、嘱託職員（市史編さん室、現在3人）の数を減らしたい。

組織、人員に関する提言

- ・市史編さん室は、本文編発刊以後も別編（ダイジェスト版、資料目録、自然編）の編集や資料整理等の作業が必要なので、最低限の人数で存続させたい。

各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載